

## 令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	14人	算数	14人	理科	14人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	13人	算数	13人	理科	13人
------	----	-----	----	-----	----	-----

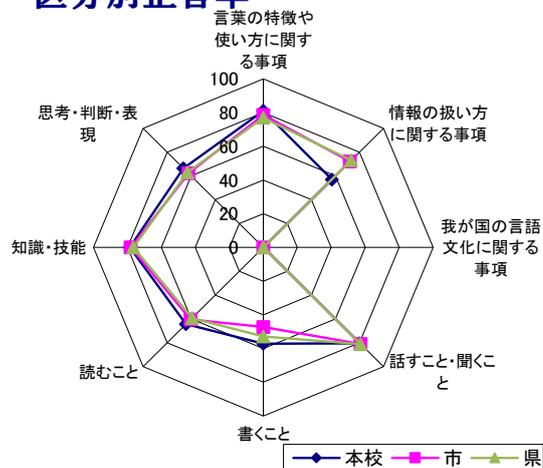
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立国本西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	81.0	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	57.1	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	80.4	81.0	81.1
	書くこと	57.1	47.2	52.8
	読むこと	64.3	60.5	59.3
観点	知識・技能	78.6	78.0	76.5
	思考・判断・表現	66.5	62.3	63.1



## ★指導の工夫と改善

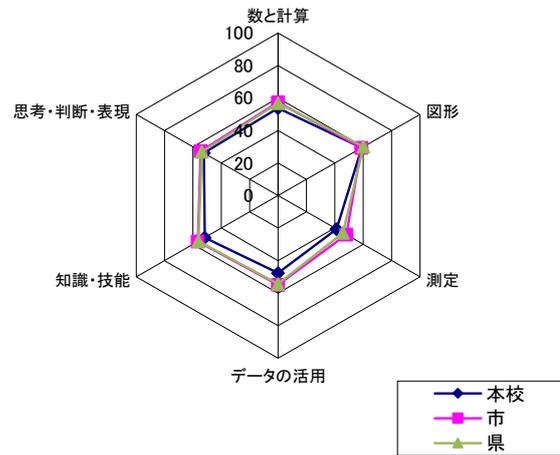
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は81%で、県平均と比べて4.1ポイント高い。 ○ローマ字の問題では、正答率が100%であった。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題の正答率は、県平均より低い。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題の正答率は、県平均より高いが、無回答率も高い。	・朝の学習や宿題等で継続的に漢字練習に取り組み、定着を図る。また、課題の内容も、熟語の練習のみに限らず部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作ったりするなど、児童の関心を高めるような課題の取り組み方を工夫し、既習の漢字を使う習慣が身に付くようにする。また、国語科以外の学習活動においても、日頃から正しい言葉や漢字を使うよう指導の充実を図る。
情報の扱い方に関する事項	●国語辞典の使い方の問題では、正答率が57.1%で、県平均と比べて16ポイント低い。	・国語科の教材の意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など基本事項について正しく理解できるようにする。また、当事者意識をもって情報を活用し、解決する力を身に付けられるよう、一人一台端末を日常生活のみならず広く活用する機会を増やしていく。
我が国の言語文化	●平均正答率は80.4%で、県平均と比べやや低い。 ○話し手が伝えたいことの内容を捉える問題では、正答率が100%であった。 ●司会者が参加者の考えをまとめる問題では、正答率が64.3%で、県平均と比べて4.9ポイント低い。話の内容を要約することができていない児童が多かった。 ●自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、正答率が78.6%で、県平均と比べて3.4ポイント低い。	・国語科で学習した話し方のスキルを常に意識できるようにする。また、グループ等での話し合い活動の際には、「相手に伝わるように自分の理由を挙げて話す」という活動を重視し、話す内容について観点を示して分かりやすく相手に伝えることができるようにするなどして、指導の充実を図る。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は80.4%で、県平均と比べて4.9ポイント低い。 ○話し手が伝えたいことの内容を捉える問題では、正答率が100%であった。 ●司会者が参加者の考えをまとめる問題では、正答率が64.3%で、県平均と比べて4.9ポイント低い。話の内容を要約することができていない児童が多かった。 ●自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、正答率が78.6%で、県平均と比べて3.4ポイント低い。	・国語科に限らず、各教科等においても考えをまとめる文章を書く際に、段落の役割について意識させたり、理由と事例をつなぐ文章の書き方に慣れさせたりする。「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。作文ノートを活用し、条件に合わせて文章を書く機会を増やす。
書くこと	○平均正答率は57.1%で、県平均と比べて4.3ポイント高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、正答率が57.1%で、県平均と比べて15.4ポイント高い。自分の考えを明確にして文章を書くことができている。 ○指定された長さで文章を書く問題では、正答率が57.1%で、県平均とほぼ同じであった。	・国語科に限らず、各教科等においても考えをまとめる文章を書く際に、段落の役割について意識させたり、理由と事例をつなぐ文章の書き方に慣れさせたりする。「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。作文ノートを活用し、条件に合わせて文章を書く機会を増やす。
読むこと	○平均正答率は64.3%で、県平均と比べて5ポイント高い。 ○説明文を読み、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が35.7%で、県平均と比べて13ポイント高い。 ●登場人物の気持ちの変化を想像する問題では、正答率が50%で、県平均と比べて5.8ポイント低い。	・教材の読み取りの際に、児童が叙述に沿って考えることを特に意識して教材文を読むよう、継続して指導する。話し合いで多様な意見が出た際にも、教材文の叙述を基にしているかを軸にして話し合いを行う。段落の要点をまとめたり、場面の様子についてあらすじを端的にまとめるたりする活動を通して、読解力を高められるようにする。

# 宇都宮市立国本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.8	57.4	56.9
	図形	58.9	58.7	60.1
	測定	41.1	48.1	45.7
	データの活用	47.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	51.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	52.4	54.5	53.8



## ★指導の工夫と改善

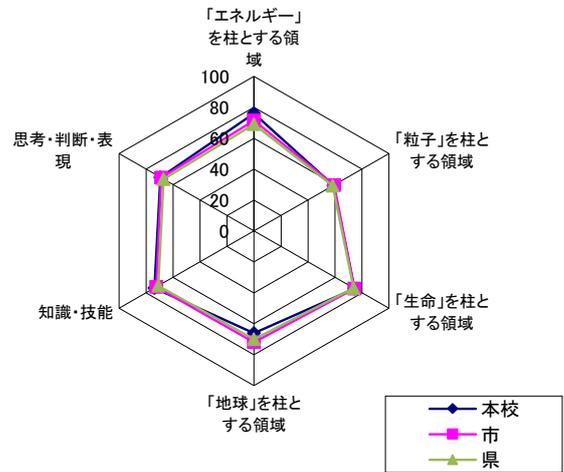
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は53.8%で、県平均と比べて3.1ポイント低い。</li> <li>○数量の関係について口を使って正しいテープ図を選ぶ問題の正答率は85.7%で、県の正答率より5.4%高い。</li> <li>●万の単位の大きな数の表し方や構成について問われる問題では、数のまとまりを基に考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、大きな数を100や1000などの数のまとまりで見られるような問題を繰り返し解くことにより、数の量感を捉えられるようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は58.9%で、県平均と比べて1.2ポイント低い。</li> <li>○立体の球を平面で切ったときの正しい切り口を選ぶ問題の正答率は92.9%で県の正答率より18.9ポイント高い。</li> <li>●箱の横の長さから球の半径を求める問題では、直径や半径の性質は理解しているが、質問の意図が読み取れず、誤答している児童が多い。正答率が42.9%で県の正答率より13.7ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を正確に理解し解答できるように、日ごろから様々な問題に取り組むようにする。</li> </ul>
測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は41.1%で県平均と比べて4.6ポイント低い。</li> <li>●測定のすべての問題で県の平均より低い。</li> <li>●時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率は42.9%で県平均と比べて13.1ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻を求める問題だけでなく、時間が経過する前の時刻を求める問題を意図的に取り入れるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は47.6%で県平均と比べて6.7ポイント低い。</li> <li>●データの活用のすべての問題で県の平均より低い。</li> <li>●二次元表の合計欄に当てはまる数を求める問題では、二次元表を正しく読み取ることのできない児童が多い。正答率が50.0%で、県平均と比べて9.7ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元表の読み取りなど、算数だけでなく社会科などの他教科との関連を図り、データを通じて客観的に捉えようとする見方を養い、適切なデータ収集方法や分析の仕方を含めた問題解決の進め方を学ばせていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立国本西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	58.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	66.1	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.8	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.4	68.8	67.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は76.0%で、県平均と比べて6.9ポイント高い。</p> <p>○実験結果から、風の強さとものを動かすはたらきの関係について解釈し、表現できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて16.3ポイント高い。</p> <p>●ゴムの本数を増やして実験した結果を適切に表しているグラフを選択できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて20.9ポイント低い。</p>	<p>・実験結果から考察し表現する活動をこれからも大切にしていける。また、結果と考察の違いをはっきりと示しながら、考えを深める練習をさせていく。</p> <p>・データを整理し、分かりやすく伝える力を育むために、結果をグラフに表す作業を積極的に授業に取り入れていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は58.9%で、県平均と比べて0.6ポイント高い。</p> <p>○粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題の平均正答率は28.6%で、県平均と比べて1.6ポイント高い。</p> <p>○重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて9.5ポイント高い。</p>	<p>・科学的な思考力を養い、主体的に学習に取り組む姿勢を育むために、授業の中で問題解決の流れを意識し、予想に基づいて結果がどうなるかを話し合わせる時間を確保していく。</p> <p>・今後も、実際の実験道具を用いた活動を通して、児童の観察や操作といった技能を高めていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は74.5%で、県平均と比べて0.7ポイント高い。</p> <p>○植物の成長の過程について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて8.3ポイント高い。</p> <p>●複数の植物の体のつくりを比較し、共通点を記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて10.6ポイント低い。</p>	<p>・生命の尊さや自然の不思議さを実感し、深い学びにつながるよう、実際飼育や観察活動を充実させていく。</p> <p>・飼育や観察に並行して、用語の確認を徹底し、具体的な対象と結びつけながら、正確な意味を定着させていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●平均正答率は66.1%で、県平均と比べて4.0ポイント低い。</p> <p>●太陽と日陰の位置の関係と、校舎によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて考えることができるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて13.5ポイント低い。</p> <p>○温度計の使い方が身に付いているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて3.0ポイント高い。</p>	<p>・自然事象について、感覚的には理解できていても、言葉で説明するのが苦手な児童が多くみられた。友達に話したり、文章に表したりする活動を取り入れ、説明する力を伸ばす。</p> <p>・今後も、実際の実験道具を用いた活動を通して、児童の観察や操作といった技能を高めていく。</p>

## 宇都宮市立国本西小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「教科(国語, 社会, 算数, 理科)の授業の内容はよくわかりますか」「教科の学習は好きですか」「教科の学習は, しょう来のために大切だと思いますか」という設問の肯定的回答割合は, 県の肯定的回答割合に比べ, 高い傾向が見られた。また, 「学習して身に付けたことは, しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という設問の肯定的回答割合が100%であった。さらに「勉強していて, おもしろい, 楽しいと思うことがある」「疑問や不思議に思うことは, 分かるまで調べたい」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という設問の肯定的割合も高く, 県の肯定的回答割合に比べても高かった。これらの結果から, 各教科の学習において児童が主体的に学んでいる様子が伺える。今後も, 学習指導の向上のために, 全校体制で校内研修に取り組んでいく。

●「家で計画を立てて, 勉強している」「家で, 学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強している」「家で, テストで間違えた問題について勉強している」「学習に対して, 自分から進んで取り組んでいる」などの自分で考えて学習に取り組むことについても, 自主学習の例示や声掛けなどを行うことで, 積極的に取り組む気持ちをさらに高めさせたい。

○「自分には, よいところがあると思う」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問の肯定的回答割合が高い。自己肯定感の高さとともに, 人の役に立ちたいという意欲が伺えた。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「人と話すことは楽しい」「しょう来のゆめや目標をもっている」という設問の肯定的回答割合が100%である。また, 「家の人としょう来のことについて話すことがある」という設問の肯定的回答割合は, 県の肯定的回答割合に比べ, 高かった。帰宅後, 家の人と話す時間が十分に取れている様子が伺えた。

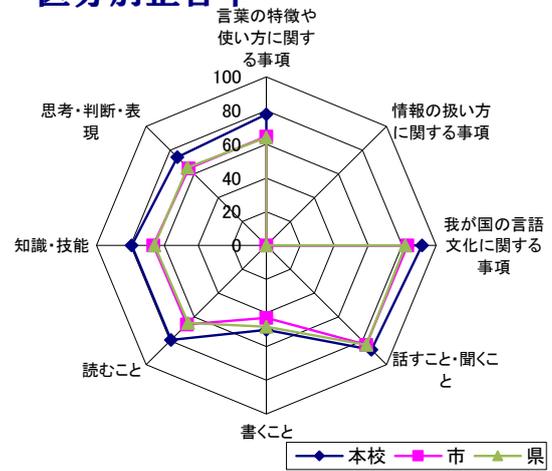
○「自分の行動や発言に自信をもっている」という設問の肯定的回答割合は100%である。引き続き, 一人一人に気を配り, 日常の様々な行動や発言を積極的に認めたりほめたりするよう心がけるとともに, 家庭との連携を図るため, 個人懇談や授業参観, 連絡帳への記載等で, 学校での児童の様子(よさや成長)を保護者に伝えていく。

○●「クラスの友達との間で, 話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができている」という設問の肯定的割合は, 県の肯定的回答割合に比べても高かった。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問には一部否定的回答も見られた。自分の考えを表現する活動の充実を目指し, 発表する機会を多く設けるとともに, 高め合う授業を展開するための環境づくりにも取り組んでいくような学習活動を今後も行っていく。

# 宇都宮市立国本西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.8	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	91.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.5	83.3	83.4
	書くこと	50.0	42.8	48.2
	読むこと	79.2	66.1	65.1
観点	知識・技能	79.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	74.0	64.6	65.5



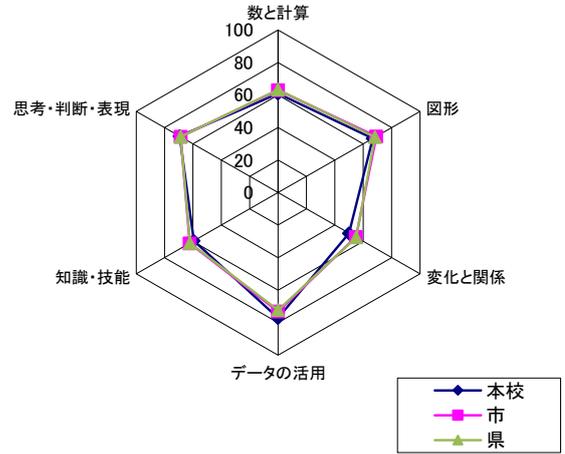
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は77.8%で、県平均と比べて13.7ポイント高い。</li> <li>○第4学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする問題の正答率は、県平均より高い。</li> <li>○修飾語、語句や熟語の意味に関する問題は、すべて県平均より高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・漢字に関しては、今後も漢字スキルや漢字プリントを活用して、定着を図っていく。</li> <li>・語句に関する問題を解かせたり、国語辞典を活用したりする機会を設け、さらに理解を深めさせていく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は91.7%で、県平均と比べて9.8ポイント高い。ことわざの意味を知り、正しい使い方を十分理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館司書と連携し、ことわざに限らず、我が国の言語文化に関することに興味をもてるよう、読書環境や教室内の学習掲示物を整えていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は87.5%で、県平均と比べて4.1ポイント高い。</li> <li>○話し合いを基に自分の考えをまとめる問題では、正答率が100%であった。</li> <li>●話し手の工夫を捉える問題では、正答率が75%で、県平均と比べて8.9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、目的に合わせて、相手に伝えたいことを整理し、まとめる練習をしていく。また、国語の学習に限らず、学級活動や児童会活動での話し合いの場でも、それらを生かした活動に取り組みさせていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は50%で、県平均と比べて1.8ポイント高い。</li> <li>○内容の中心を明確にし文章を書く問題では、正答率が50%で、県平均と比べて11.4ポイント高い。</li> <li>○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、正答率が50%で、県平均と比べて4.5ポイント高い。</li> <li>●指定された長さで文章を書く問題では、正答率が50%で、県平均と比べて6.6ポイント低い。</li> <li>●書く問題では、無回答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、ねらいや条件に合った文章を書く機会を設定し、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。</li> <li>・授業の中で文章を書く際にも、読み取ったこととそれに対する自分の考えを整理して書けるようしていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は79.2%で、県平均と比べて14.1ポイント高い。すべての問題で、県平均より高い。</li> <li>○登場人物の気持ちの変化を想像する問題では、正答率が100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章読解の問題集を活用しながら、様々な文章に触れ、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える指導を行っていく。</li> <li>・読書指導により、物語を多く読む習慣付けをするなどし、登場人物への理解が深まるようになっていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立国本西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.9	63.0	63.3
	図形	66.7	69.2	68.3
	変化と関係	50.0	54.8	55.0
	データの活用	77.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	59.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	69.4	68.7	68.7



## ★指導の工夫と改善

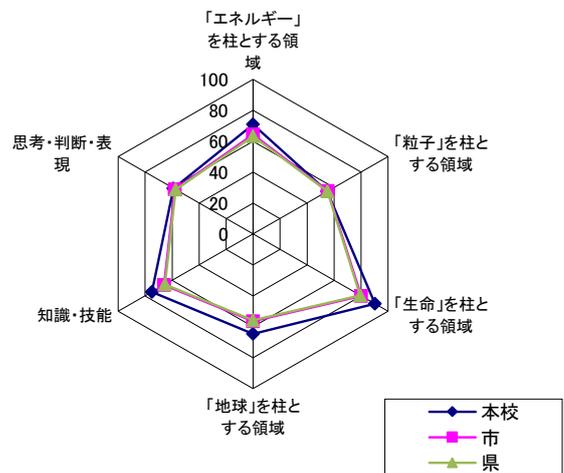
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は60.9%で、県平均と比べて2.4ポイント低い。</li> <li>○帯分数の意味を理解し、もとにする分数のいくつ分かで大きさを考える問題では、正答率が66.7%で県平均より8.8ポイント高い。</li> <li>●図から数量の関係を読み取り、1つの式で表現する問題では、数のまとまりで見ることができない児童や図を式に表現することのできない児童が多かった。正答率が41.7%で県の平均より18.8ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図から式にする問題や式から図にする問題を繰り返し解き、図と式を結び付けて考えられるようにする。</li> <li>・1つの方法だけでなく、複数の方法で求められるようにする。また、伝え合いや学び合いで友達の解き方に触れる機会を増やす。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は66.7%で、県平均と比べて1.6ポイント低い。</li> <li>○立方体と直方体の違いをを求める問題では、立体の構成要素から違いを求めることができた。</li> <li>●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題の平均正答率は33.3%で県平均と比べて20.6ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の学習では、作業的・体験的な活動を通して理解・定着を図ってだけでなく、頭の中だけで具体物で組み立てられるよう、様々な問題に取り組ませしていく。</li> <li>・ICTを積極的に活用し立体を可視化させることにより、立体への理解を深めていく。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は50.0%で県平均と比べて5ポイント低い。</li> <li>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が66.7%で県の平均より15.9ポイント高い。</li> <li>●割合を使って長さを求める問題では、正答率が25.0%で県の平均より14.8ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる2つの数量関係を学ぶために、日常生活においても経験できる部分を授業で扱うようにして、児童がより具体的にイメージをつかめるような意識をもたせて指導していく。</li> <li>・問題の状況を、数直線や図を用いて表し、数量の関係をきちんと把握できるようにしていく。</li> <li>・文章題における問題を正しく読み取り、問題の場面状況に沿った解答ができるよう、問題の状況や場面のイメージをもたせる声掛けをしていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は77.1%で、県平均と比べて4.8ポイント高い。</li> <li>○二次元表の意味を問う問題では、正答率は91.7%で県平均と比べて15.3ポイント高い。</li> <li>●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、正答率が58.3%で県の平均より13.0ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、表やグラフを読んだり表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育てる。</li> <li>・読み取ったことから考えられることを整理したり、活用して考えたりする学習も取り入れて、資料を分析する力を育てていく。</li> <li>・データの活用について、算数に限らず理科や社会科、総合的な学習の時間の活動とも関連させながら、教科横断的に指導していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立国本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.8	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	55.0	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	90.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	64.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	75.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.0	57.9	57.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は70.8%で、県平均と比べて7.6ポイント高い。</p> <p>○電流が流れない回路を流れるように改善できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて10.3ポイント高い。</p>	<p>・ショート回路の危険性については、引き続き丁寧に指導し、理解を図る。その際、なぜ危ないのかを具体的な例を交えて説明し、ショート回路が起こらないように安全な実験方法を繰り返し指導していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は55.0%で、県平均と同程度であった。</p> <p>○湯気について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて28.7ポイント高い。</p> <p>●水を冷やしたときの温度変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて31.9ポイント低い。</p>	<p>・今後も、用語の意味をきちんと押さえ、正確に理解できるよう指導を徹底していく。特に、基本的な用語については、具体的な事象と関連付けて説明し、定着を図る。</p> <p>・授業の中で問題解決の流れを意識し、予想に基づいて結果がどうなるかを話し合わせる時間を確保していき、児童が科学的な思考力を養い、主体的に学習に取り組む姿勢を育てていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は90.3%で、県平均と比べて11.0ポイント高い。</p> <p>○骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて41.3ポイント高い。</p> <p>●人の腕と鳥の翼の骨を観察した結果から、差異点を記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて22.7ポイント低い。</p>	<p>・骨の働きについての理解は定着していた。これからも、自分の体を触ったり動かしたりしながら実感を持たせ、理解を確認させていく。</p> <p>・資料や図を正確に読み取ることができなかった。今後は、資料の「同じところ」「違うところ」に注目させ、比較しながら読み取れるように声かけをする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は64.6%で、県平均と比べて8.8ポイント高い。</p> <p>○時刻によって星座の並び方は変わらないことや、北の星の動きについて理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて38.4ポイント高い。</p> <p>●水たまりのできにくさについて、水のしみこみややすさと関連付けて表現できるかどうかをみる問題の平均正答率は、県全体と比べて8.2ポイント低い。</p>	<p>・星座アプリなどの活用や、家庭での星空観察を促す声かけは、星の動きに関する知識の定着に効果があった。今後も継続していく。</p> <p>・実験で学んだことを、実際の具体的な場面と結びつける指導をより一層重視していく。これにより、児童が学習内容を実生活に応用する力を育てていく。</p>

## 宇都宮市立国本西小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思う」「勉強していて、不思議だ、なぜだろうと思う」という設問の肯定的回答割合が100%である。学習意欲が高く、好奇心が旺盛であることが伺えた。

○「授業では、自分の考えを発表する機会がある」「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行う」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」という設問の肯定的回答割合が100%である。自分の考えを発表する機会や対話を通して思考を深める場の設定は十分に確保されていることが伺えた。今後は、児童が自分の考えをより練り上げることができるようにするために、教員のコーディネート力の向上も必要であると思われる。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の意見を最後まで聞く」「先生は学習のことについてほめてくれる」という設問の肯定的回答割合が100%である。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問の肯定的回答も県全体の平均と比較して高いことから、学級内で話し合い活動が行いやすい風通しのよい環境を、教員が日常的に整えていることが伺える。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる」という設問については否定的回答割合が県平均よりも高く、与えられた課題や困難な課題に対しては、意欲的に取り組めない児童がいることが伺える。やらなければならない課題や困難な課題に対しても意欲が持続するような教員の声掛け等の工夫や達成感や成就感を味わわせる学習活動の工夫が必要である。

○「教科(国語、社会、算数、理科)の授業の内容はよくわかりますか」「教科の学習は、しょう来的ために大切だと思いますか」という設問については、いずれの教科も肯定的回答割合がほぼ100%であった。これらの結果から、各教科の学習において児童が主体的に学んでいる様子が伺える。今後も、学習指導の向上のために、全校体制で校内研修に取り組んでいく。

## 宇都宮市立国本西小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・4・5年ともに、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問の肯定的回答割合は高い。また、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感じることがある」「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の設問における肯定的回答割合も高い。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる集団の学び合いの場を設ける。	・4・5年ともに、「話し合いに自分から進んで参加している」「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問の肯定的回答割合は高い。しかし、「自分の考えや意見を発表することは得意」の設問では肯定的回答割合が高いものの、若干の二極化が見られた。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答割合が高いものの、ばらつきがある。	・思考・表現力を高める多様なアウトプット活動の充実	・テーマ作文や絵日記、端末を使った写真日記や観察記録等を課し、自分の考えや意見を相手に分かりやすく表現する能力や態度を育成する。 ・あらすじを書いたり、要約したりする活動の段階的な指導の場を設ける。